

## ベトナムにおける草の根技術協力事業の取り組み 観光・特産品開発促進を支援



カトウ族の織物を織る様子



2020年8月、草の根技術協力事業（パートナー型）「クアンナム省ナムザン郡少数民族地域における住民主体による地域活性化のための人材育成事業」（2016年8月～2020年8月）\*が終了しました。この機会にあわせ、同事業の取り組みを紹介します。

ベトナムの山岳少数民族は、地理的・文化的条件により、発展から取り残され、生計手段も限られている状況が多く見られます。中部地域のカトウ族等の少数民族にもそのような状況が見られ、地域の伝統文化や自然も損なう結果を招きつつあります。同事業を実施したナムザン郡も、こうした地域の一つです。

同事業では、公益社団法人「国際開発救援財団（FIDR）」が、クアンナム省各関連機関およびナムザン郡人民委員会と協力し、少数民族の包括的な地域振興を進めるためのモデル構築を目的に、地域振興においてリーダーとなる人材の育成や、地域資源を活かした商品開発、マーケティング体制を整備し、持続的な地域振興のための基盤づくりを進めてきました。

FIDRは2001年より、カトウ族と共に地域開発への取り組みを開始し、2012年には住民主体による観光開発（コミュニティ・ベースド・ツーリズム：CBT）を中心とした地域振興の基盤を作りました。このことを背景

### 目次

#### 【巻頭】

- ・ベトナムにおける草の根技術協力事業の取り組み「観光・特産品開発促進を支援」

#### 【成長と競争力強化】

- ・オンラインでスタディツアーを受入
- ・起業家支援プログラム「NINJA Accelerator in Ho Chi Minh City」の公募を開始

#### 【その他】

- 1 ・「旭川市・クアンニン省の都市間連携による農産加工力向上のための普及・実証事業」協議議事録署名式
- 3 ・Voice of Expert 専門家便り
- 3 キーは「ファン作り」！熱烈なファンによって、少数民族の魅力がさらにパワーアップ♪/公益社団法人「国際開発救援財団（FIDR）」 大槻修子さん
- 5

に、JICA 草の根技術協力への応募がなされ、2016 年より事業が実施されました。FIDR ベトナム事務所の大槻所長は、同スキームに応募した背景として、「ベトナムは日本と同様、南北に長い国土を持ち、小規模農家が多く、多様な地域資源があるため、まだまだ多くの地域産品を見出す素地が残されている。一村一品運動や地域に根差した特産品作りは、日本の経験が役立ち、それらを振興する地域リーダーの人材育成に長い経験と知見を持つ JICA とのパートナーシップが欠かせない」と述べています。

今回は、同事業の活動の成果として、以下の3点の成果をご紹介します。

- ①地域振興を促進するリーダーとなる人材の育成、住民主体の地域振興促進モデル、官民連携による地域振興の支援体制が構築され「ナムザンモデル」として、クアンナム省各関連機関とナムザン郡人民委員会から、高く評価されました。
- ②製品開発では、住民主体の 84 グループにより地域資源を活用した 232 商品が開発され、約 9 割のグループで黒字化を達成。同時に、販売促進のための情報発信とマーケティングの体制を構築しました。
- ③観光開発では、240 を超えるツアーが実施され、2,500 人以上の人々が当地を訪問しました。今年度は、新型コロナウイルスの影響で観光客が減少し、毎年行っているスタディツアーも中止になるなど、観光開発分野では厳しい状況が続きますが、地域住民の主導でプロジェクトを観光事業から農作物販売事業へ移行させ 2 トンもの農作物出荷に成功しました。現在、村民自ら Wi-Fi を導入してオンラインツアーへのチャレンジを開始しています。



同事業で開発された商品

成田空港や関西空港の「世界の一村一品マーケット」の店舗では、カトウ族の織物製品の展示販売契約が開始するなど、ベトナム中部地域だけでなく世界に向けた取り組みを開始しており、今後の事業の広がりが期待されます。また、同事業に続くフェーズ 2 も、2021 年度から実施予定です。今後の協力においても、人材育成、官民支援、マーケティング、後方支援の体制構築を通じて、更なる地域の魅力と資源を活用した持続的な農村産業の促進に貢献していきます。

★ FIDR ベトナム事務所の大槻所長に今月号の Voice of Expert を寄稿頂きました。ぜひ、ご覧下さい。

Facebook では、同事業に関わった人たちが 4 年間で振り返り、それぞれの想いを語っている動画を紹介しています。



右記の QR コードからぜひご覧下さい。

\* 草の根技術協力事業「クアンナム省ナムザン郡少数民族地域における住民主体による地域活性化のための人材育成事業」  
[https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/partner/vie\\_22.html](https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/partner/vie_22.html)

## 草の根技術協力事業とは

JICA 草の根技術協力事業は、日本の NGO、大学、地方自治体及び公益法人等の団体による開発途上国への協力活動をサポートする事業です。本事業は JICA 資金を基に、日本人専門家による対象国での活動や、日本や対象国での研修・セミナー、必要な資機材の供与等を組み合わせたプロジェクト型の協力事業です。

通常の ODA は、開発途上国の政府から要請を受けて、政府間ベースで実施するものですが、本事業

業は上述の団体による提案を受け、その事業の実施を JICA が同提案団体に委託して実施されます。このことから、各事業のアプローチは提案団体に委ねられ、地域の多様なニーズにきめ細かく対応できる機動性の高い協力であることに特徴があります。

ベトナムでは、2002 年の事業開始から 2020 年 9 月までに、144 件の事業が採択・実施されています。

## 公益財団法人日本ユースリーダー協会による高校生・大学生のための海外研修 オンラインでスタディツアーを受入



参加者全員での集合写真

8月16日、JICA ベトナム事務所は、公益財団法人日本ユースリーダー協会の実施する、高校生・大学生を対象とした海外研修「GET (Global Education Training)」に協力し、オンラインでスタディツアーを実施しました。18名の高校生・大学生（日本人7名、ベトナム人11名）が参加し、JICA 担当所員よりベトナムでの国際協力について説明を受けました。学生からは「高校生の今からでもできる国際協力は何か」等、活発な質疑がなされました。

日本ユースリーダー協会は、毎年の夏休みや春休みに、GET 研修を東南アジアで1週間実施しています。今年は、新型コロナウイルス感染防止のため、実施を断念していましたが、ベトナム側で協力している CYDECO（国際青年開発協力協会）の尽力もあり、Zoom を用いたオンライン会議の形で実施することができました。

JICA ベトナム事務所は、例年スタディツアーの受け入れを60件程度を実施していますが、新型コロナ

ウイルスの影響によって、日越間の往来が困難となり、2019年度は43件、2020年度は未だ0件です。スタディツアーを本格的に行うのはまだ難しい状況ですが、これをオンラインで実施したことによってメリットもありました。例年であれば、ベトナム側の同行はハノイ在住の学生だけであったものが、今回はダナンやフエなど他の都市の学生も参加することができました。

今後はWEBを通じたバーチャル現場視察など、まだまだ工夫の余地はあるかもしれません。今後もJICAはスタディツアーを通じて、高校生・大学生へのJICA事業の理解促進を図るとともに、今後の進路やキャリアを考える機会を提供していきます。



発表を行う JICA ベトナム事務所員

\* (公財) 日本ユースリーダー協会による高校生・大学生のための海外研修「GET (Global Education Training)」

<https://day-get.com/>



## 起業家支援プログラムの公募を開始 「NINJA Accelerator in Ho Chi Minh City」

8月25日、JICAは、ベトナムのスタートアップ、起業家を志す人を対象とする3か月間のアクセラレーションプログラム「NINJA Accelerator in Ho Chi Minh City」の公募を開始しました。

同プログラムは2020年1月に始動した「Project NINJA (Next INnovation with JAPAN)」\*1の下で行われるプログラムの一つで、ビジネス・イノベーションを通じて開発途上国における社会課題解決を目指します。JICAは同活動を通じて、起業家と日本企業・投資家とのマッチングや起業啓発活動、起業家

が抱える課題の特定・政策提言などの支援を行っていきます。9月現在、世界に先駆けてベトナムとアフリカで同プログラムを実施しています。

今後、選考を通過した30チームは、2021年1月中旬から経験豊富な専門家からの助言、投資家やベンチャーキャピタルとのネットワークの構築や、ビジネスアイデアの形成と検証の機会を得ることができます。2020年4月16日のDemoDay（資金調達イベント）では、ベトナム、日本、シンガポールのアクセラレーター\*<sup>2</sup>、投資家、ベンチャーキャピタルへの売り込みを行い、事業拡大と近隣諸国への展開のための資金調達を目指します。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は、多くのビジネスに深刻な打撃を与え、経済活動や都市機能の停滞を招きました。その結果、あらゆる業界が、前例のない課題に直面しています。一方でこうした危機は、起業家が新たな社会情勢（ニューノーマル）に対応した、持続可能な未来を築くためのビジネスチャンスをもたらしています。

JICAは、同プログラムを通じ、新型コロナウイルスに伴う社会経済情勢の変化によって生み出され

た、新しい付加価値を提供する起業家への支援を通じ、ベトナムの持続可能な経済発展に貢献していきます。



※プログラムの詳細はこちらをご参照下さい。  
<https://www.jicaninjaasia.com/>

\*1. [https://www.jica.go.jp/activities/issues/private\\_sec/project\\_ninja/index.html](https://www.jica.go.jp/activities/issues/private_sec/project_ninja/index.html)

\*2: スタートアップ企業のビジネス拡大のためのノウハウなどのサポートをする組織

\*本プログラムは、シンガポールの南洋理工大イノベーションエンタープライズカンパニー（NTUitive Pte Ltd）及びベトナムのサイゴンイノベーションハブ（SIHUB）、ベトナム国立大学ホーチミン校イノベーションテクノロジーパーク（ITP）、サイゴンハイテクパーク・イノベーションセンター（SHTP-IC）との協力を得て実施されます。



その他

### 中小企業・SDGs ビジネス支援事業

## 「旭川市・クアンニン省の都市間連携による 農産加工力向上のための普及・実証事業」協議議事録署名式



署名式の様子

8月25日、クアンニン省にて、JICAは株式会社エフ・イーおよびクアンニン省人民委員会との間で中小企業・SDGs ビジネス支援事業「旭川市・クアンニン省の都市間連携による農産加工力向上のための普及・実証事業（地域産業集積海外展開推進枠\*）」の実施合意に係る協議議事録の署名式を行いました。同式典は、コロナウイルス感染症の影響下で日本企業が渡航できないため、旭川市、ベトナム国クアンニン省、札幌及び東京をオンラインで接続して執り行いました。

本事業では、実施団体である株式会社エフ・イー

が異形根菜類洗浄加工機、旭川機械工業株式会社がトウモロコシ皮むき機、農業生産法人株式会社谷口農業が農産物加工技術を提供し、3社による「加工機材及び商品開発ノウハウ」を活用して、同省加工業の商品開発能力と商品供給能力の向上を目指します。

同省は、ハロン湾やイエントウーなど観光地にも恵まれ、観光客への販売の機会も多く、現在も一村一品運動による農産物の開発に取り組んでいます。同事業では、日本の技術を活用し高品質、高付加価値の加工品の生産に取り組むとともに、一次加工から商品開発と販売まで網羅した一連の活動により、今後のクアンニン省の農業へ大きく貢献することが期待されています。

\*地域産業集積海外展開推進枠：地域の海外展開を図ることを目的に、国内各地の産業集積地に蓄積されている技術・ノウハウ・ネットワークを活用し、産業集積地に立地する複数の企業が協働して途上国現地で技術・ノウハウの実証を行う事業。



# Voice of Expert 専門家便り

キーは「ファン作り」！熱烈なファンによって、少数民族の魅力がさらにパワーアップ♪  
草の根技術協力「クアンナム省ナムザン郡少数民族地域における住民主体による地域活性化のための人材育成事業」  
公益社団法人「国際開発救援財団（FIDR）」 大槻修子さん



カトウー族ツアーの様子

皆さん、始めまして。公益財団法人国際開発救援財団（FIDR: ファイダー）の大槻と申します。ベトナムに来て早16年、、、ほぼ全くと言っていい程ベトナム語もマスターできずに、多くのベトナム人の皆さんに支えられ中部ダナンに滞在しております。私のベトナムでの時間の大半は、中部少数民族の人々との試行錯誤の日々でした。

私たちの団体は、1998年にダナン市に事務所を設立以来、クアンナム省をはじめ、コントウム省やトゥアティエンフエ省等、主に中部山岳地域や中部高原地域の少数民族の人々を支援してきました。生活改善を通じた栄養改善や生計向上のために、伝統文化を活かした観光開発や特産品作り等、地域の人々のニーズに合わせた広範囲な分野のプロジェクトを進めてきました。

今回、紹介させていただくプロジェクトは、草の根技術協力「クアンナム省ナムザン郡少数民族地域における住民主体による地域活性化のための人材育成事業」です。このプロジェクトは、2016年から4年間実施し、少数民族の包括的な地域振興を進めるために必要な地域リーダーの育成や地域の資源・宝を活用した特産品開発、そしてそれらの実践を通じて、地域の活性化を図るものでした。最終的に、製品開発では230を超える製品が開発され、約50%以上の製品が中部を中心とした14店舗で定期的に取り扱われるようになり、観光開発においても、240を超えるツアーが実施され、2,500人以上の人々が訪問していただきました。

このプロジェクトの特徴として、開始当初から意識して取り組んできたことがあります。それは、「ファン作り」です。私たちの団体が実施してきたプロジェクトの中でもダントツに違いができました。このプロジェクトほど、ファンの皆様に支えられた

ものはありません。その中でも、私にとっても忘れられないファンの方がいらっしゃいました。

その方のお年は86才。たった一人で人生初のダナンに降り立ち、私の姿を空港で見かけるや否や「大槻さんね？大槻さんよね？あのカトウー族の織物やってる？」とお年を全く感じさせず（失礼！）、大きくはつらつとしたお声で、「やっとたどり着いた～！憧れのカトウー族の地！」と大喜びしてくださいました（実際には、ダナンからさらに車で約2時間を移動しなければなりませんでしたが…）。その女性は、カトウー織実習を希望され、はるばるベトナムにやってきたのです。彼女が来る数か月前、突然に私に連絡があり、「どうしても少数民族のカトウー織を習いたいのです！ぜひ、受け入れてもらえませんか？？」という連絡がありました。私もかなり驚きましたが、その女性は「私はかなり以前から織物の大ファンで、ブータンをはじめ、多くの国々の織物を学んできました。ただもう年になってしまったので、自宅にあった大切な織機も友人に差し上げたものの、織物が忘れられず、体一つでできる織物はないかと、インターネットで探し廻ったところ、FIDRさんの織物のプロジェクトを知り、それ以来大ファンになったのです」と話してくださいました。

少数民族が住んでいるところは、エアコンもほぼありませんし、食事や宿泊先等、安定・安定したところが少ないことから、正直なところ当初は、無理だろうなあ、、、と思っておりましたが、最後には「私の人生の最後の織物だと思う、人生終盤を納得いくまでやりたい」との熱いメールが届き、私たちも応援させていただくことになりました。カトウー族の織物グループに相談すると、やはり年齢が高く外国人（日本語のみです）ということで「できるかな？？」と思っていたようですが、その熱意を説明すると、カトウー族グループも「頑張ってみよう！」と応援してくれました。



カトウー織を習得するのは一苦労です

旅行会社や日本語通訳さん、そしてカトウ一族の女性たちが、一斉にその女性の夢を応援しようと立ち上げてくれました。2週間という期限付きではありましたが、最終的にその女性は、時には嬉し涙を浮かべながら、カトウ一族と大笑いして、毎日ダナンから織物村まで通い、カトウ織を無事に習得されていられました。不思議なことに、途中からは言葉はなく、村の風だけが吹く静かな村で、カトウ一族の織り手さんと一緒に、織物を織る日本人女性が風景に溶け込んでいる姿は、カトウ一族の女性た

ちと私たちスタッフの心をも動かす出来事になりました。

こんなユニークなファンがいるプロジェクトをこの8月に無事に完了致しました。JICAの皆様をはじめ、多くの専門家やカトウ一族の人々、そして強烈な熱意を持ったファンの皆様には感謝の言葉しかありません。ユニークな伝統文化を持つ少数民族と、ユニークな人々によって、ユニークな成果を創出することができました。FIDRを代表し、心からの感謝を申し上げます。有難うございました。

JICAベトナム事務所では、本月報を通じて皆様との情報共有を目指しています。ご意見、ご要望は、vt\_oso\_rep@jica.go.jpまでお送り下さい。

Website <https://www.jica.go.jp/vietnam/index.html> (日・越・英)

Facebook <https://www.facebook.com/jicavietnam> (越)

発行：JICAベトナム事務所 広報班